

令和5年度医師奨学資金募集要項発表

奥州市では12月14日、来年度の医師養成奨学生募集要項を発表しました。皆様のお知り合いの方への周知をお願いします。

募集人員 1名程度

貸付金額 月額30万円(定額)

入学一時金1,080万円(定額)

入学準備金360万円を限度(義務履行加算あり)

入学準備金(胆江梓)200万円(義務履行加算無)

※ 貸付総額は最大で6年間で3,800万円です。

応募資格

奥州市立病院及び診療所の医師として業務に従事する意思がある方

募集期間

令和5年2月1日(水)から4月20日(木)

選考

面接及び書類審査 令和5年3月18日(土)

3月15日以降に申請書受理者は別途お知らせ

償還免除

医師免許を取得し初期研修終了後に貸付期間と同じ期間、奥州市立病院で勤務した場合は貸付金額の償還を免除します。

応募方法

募集要項及び奥州市医療局ホームページにて詳細をご確認のうえ、下記問い合わせ先まで郵送または持参にてお申込みください。



問合せ先

奥州市医療局医師確保推進室：岩淵・尾形

TEL 0197-25-3833 FAX 0197-25-3832

<https://www.city.oshu.iwate.jp/site/iryoukyoku/>

奥州市医師奨学生の状況：その1

1 新規奨学生採用状況(過去5年間)

年度	H30	H31	R2	R3	R4	合計
採用数	0	0	3	1	1	5人

奥州市医師奨学生の状況：その2

2 奨学生の義務履行等の状況(奨学生等10人中)

- ① 専任医師として勤務 1人
- ② 週1回の診療応援での義務履行 4人
- ③ 県内医療機関での初期臨床研修 1人
- ④ 医学生 4人

令和4年12月現在

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

12月26日現在の新規感染者数は39,884人、累計で194,836人です。

死亡者数は117人増えて累計で387人です。

岩手県内でも、8月に第7波のピークが来て以来、いったん減少しましたが、11月には第8波として2度目の月間3万人を超え、12月は更に感染者及び死者数の増加が続いています。

年度	2年度計	3年度計	4年度											
月	2年度	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
件数	621	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17465	12222	34126	39884	194836		
死者数	30	47	8	6	5	13	54	30	11	66	117	387		

年代別感染者数(第6～第8波比較)

第6波 R4.4月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	2013	1708	1146	1548	1351	707	428	207	166	79	0	9353
比率	22%	18%	12%	17%	14%	8%	5%	2%	2%	1%	0	100%
第7波 R4.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	5511	4285	4946	5640	5456	3918	3002	1886	1258	622	0	36524
比率%	15%	12%	14%	15%	15%	11%	8%	5%	3%	2%	0%	100%
第8波 R4.12月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	4992	6234	3373	4890	5444	3149	2360	1514	1326	842	2	34126
比率	15%	18%	10%	14%	16%	9%	7%	4%	4%	2%	0%	100%
第8波 R4.12/26	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	5986	6221	3913	5669	6196	3980	2911	1971	1823	1214	0	39884
比率	15%	16%	10%	14%	16%	10%	7%	5%	5%	3%	0%	100%

大谷翔平選手ニュース

11月28日 今年最も活躍した指名打者に贈られる、「最優秀指名打者賞：エドガー・マルチネス賞」を日本人選手として初の2年連続受賞。

12月6日 オールMLBチームに2年連続2部門で選出の快挙 ファーストチーム：先発投手
セカンドチーム：指名打者

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和4年12月27日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。



- ① 佐伯邸の正門は人首城の大手門を移築したもの
- ② 館主夫妻の手で往時の景観が保たれている屋敷と庭園。4月下旬には樹齢200年を超える桜が来客を迎える。

- ③ ④江戸時代の蔵を改修した人首文庫。佐伯郁郎の蔵書のほか、高村光太郎や井上靖など多数の作家・詩人の手紙も保管され、当時の親交がうかがえる。

奥州市江刺米里地区の中心である人首町。県道8号から人首城跡へと続く坂を上ると、左手に武家屋敷を思わせる白壁の門が現れる。人首城の城主沼部氏の家老を務めた佐伯氏の屋敷だ。敷地内の蔵を利用した私設文学資料館「人首文庫」は、佐伯家出身の詩人・佐伯郁郎(1901～92年)が残した約5千点もの資料を保管・展示している。

佐伯研二館主が、大叔父にあたる郁郎から蔵書の保管を依頼されたのは昭和56年のこと。以後、佐伯館主は資料を整理しながら郁郎の足跡をたどり、平成16年に人首文庫の開設にこぎ着けた。そこには「蔵書を地域文化の発展に役立てたい」という郁郎と佐伯館主に共通した思いがあった。

貴重な文学資料や歴史ある建造物を今に伝える人首文庫と佐伯邸。ここには、ゆったりとした時が流れ、日頃の喧騒を忘れさせてくれる空間がある。



人首の由来:江刺米里に伝わる伝説では、征夷大將軍 ^{あくろおう}坂上田村麻呂が悪路王を討った後、その弟大武丸の子 ^{おおたけまる}である人首丸が抵抗を続けたが、大森山で討たれたとされ、村名や川の名はこれにちなむという。